設立

福島県では、昭和41年の東北自動車道建設工事を契機として開発に伴う埋蔵文化財の調査が大規模化しました。

その後、母畑地区(郡山市・須賀川市を始めとする２市１町２村の4,000haを超える範囲)で国営総合農地開発事業が促進されることとなり、埋蔵文化財保護行政の体制強化が求められました。

これに対応するため、福島県教育委員会は昭和52年４月に、財団法人福島県文化センター内の事業第二部に埋蔵文化財調査を担う遺跡調査課を設置し、県教育委員会からの委託により埋蔵文化財調査を開始しました。

沿革

1977（昭和52年）●財団法人福島県文化センター内に、遺跡調査課設立
1985（昭和60年）●岡部分室　開設
1988（昭和63年）●杉妻分室　開設
1993（平成5年）●遠瀬戸分室　開設
1994（平成6年）●市町村埋蔵文化財調査技術協力事業を福島県教育委員会から受託する。
1996（平成8年）●杉妻分室から山下町分室へ移動。
2001（平成13年）●財団法人福島県文化センターの改組に伴い、事業第二部遺跡調査課を財団法人福島県文化振興事業団遺跡調査部遺跡調査課と改称。
山下町分室と遠瀬戸分室を、それぞれ山下町調査室・遠瀬戸調査室に改称。岡部分室から渡利分室へ移動。
2005（平成17年）●遠瀬戸調査室を山下町調査室へ統合。
2006（平成18年）●遺跡調査課から遺跡調査グループへ名称変更。
山下町調査室を山下分庁舎に名称変更。
2009（平成21年）●遺跡調査グループから遺跡調査課へ名称変更。
2011（平成23年）●東日本大震災
2012（平成24年）●財団法人福島県文化振興基金との合併に伴い、財団法人福島県文化振興財団と改称。
2013（平成25年）●遺跡調査課を管理課・調査課の二課体制に変更。
2014（平成26年）●財団法人福島県文化振興財団から公益財団法人福島県文化振興財団へ移行。
2015（平成27年）●管理課・調査課を調査課のみの一課体制に変更。
2019（平成31年）●渡利分室が閉室され、文化財センター整備事業の機能が福島県文化財センター白河館に移転。

●交通アクセス／ＪＲ福島駅（東口）から
福島交通バス［市内循環ももりん1・2コース］に乗車。
「霞町」または「桜の聖母短期大学前」バス停下車　徒歩2分。
※いちいFOUR'S MARKET北側

【表紙写真】 縄文時代後期初頭の石棒と埋設土器（下郷町・栗林遺跡）

公益財団法人福島県文化振興財団

遺跡調査部

山下分庁舎

〒960-8115 福島県福島市山下町1-25
TEL 024-534-2733　FAX 024-525-7719
URL https://www.fcp.or.jp/iseki/

HPでは
発掘調査の情報や、
文化財に関するコラムを
掲載しています。

遺跡調査部公式サイトはこちら▶

未来につなぐ文化力

遺跡調査部

The Culture Promotion Organization of Fukushima Prefecture
Remains Research Department

令和４年度版

公益財団法人
福島県文化振興財団

分布・試掘・確認調査

分布調査は、開発予定地を歩いて遺跡を見つけ、試掘・確認調査は、遺跡に小規模な調査をして遺跡の内容や範囲を確認します。これらの調査成果は分布調査報告書として刊行されます。

分布調査

試掘・確認調査

分布調査報告書

発掘調査

試掘・確認調査で把握された遺跡の範囲のうち、現状保存ができないところについては、発掘調査による記録保存を実施します。このため、発掘調査では、写真や図面で詳細な記録を行います。

発掘調査

遺構測量

木質遺物取り上げ

発掘調査報告書の作成

調査で出土した遺物は山下分庁舎に運ばれ、洗浄・注記・接合の工程を経て実測図や写真図版を作成します。

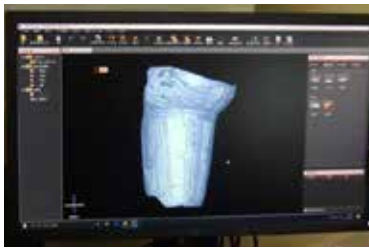
発掘調査で得られた記録や所見をまとめ、その遺跡の年代や性格を明らかにし、調査報告書を刊行します。

遺物の接合・復元

採拓

パソコンによる図面編集

脆弱な遺物のクリーニング


3D測定機による3Dデータの作成

福島県文化振興財団の組織

- 理事長
- 副理事長
- 専務理事兼事務局長
  - 事務局　総務課
  - 福島県文化センター　館長―副館長―┬文化推進課 ┬歴史資料課
  - 遺跡調査部　遺跡調査部長―調査課
  - 福島県文化財センター白河館（まほろん）　館長―副館長―┬総務課 ┬学芸課

業務内容

遺跡調査部は福島県教育委員会の委託を受けて、福島県内の複数市町村にまたがる広域事業や国・県の事業に伴う発掘調査、埋蔵文化財の有無を確認する業務を実施しています。

開発などでどうしても現状保存ができないときは、発掘調査を行い、記録により文化財を後世に残し、活用に備えています。

●報告書刊行後の記録や出土品は福島県文化財センター白河館（まほろん）に収蔵され、研究・展示・普及活動などに活用されます。

●整理作業中の一部の出土品は、とうほう・みんなの文化センター内にある『福島県文化振興財団情報コーナー』（1F）で展示しています。

啓発普及活動

発掘調査の成果を地域に還元し、啓発普及をはかるために、県教育委員会が主催する現地での説明会などに協力しています。

また、当財団の自主事業として、調査成果の講演会などを実施しています。

歴史講演会（R2.11）

遺物展示会の様子（R2.11 前田遺跡）

福島県文化振興財団情報コーナーでの展示（とうほう・みんなの文化センター）

現地公開の様子（R3.7 栗林遺跡）

2021年度の発掘調査情報

発掘調査事業および遺跡の位置図

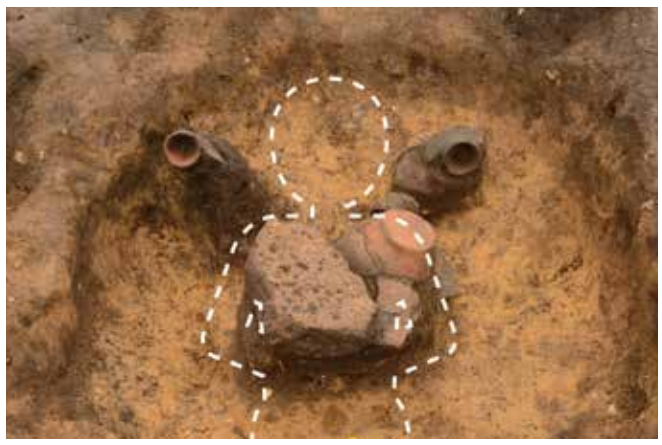
2022年度の発掘調査予定

1 **金山町　中西部遺跡**　只見川流域築堤工事
2 **南相馬市　塚田B遺跡**　農山村地域復興基盤総合整備事業
3 **浪江町　丈六横穴墓群・丈六古墳群**　一般県道落合浪江線整備事業
4 **いわき市　添野町大町遺跡**　小名浜道路整備事業

1 下郷町｜栗林（くりばやし）遺跡（5次調査）

会津縦貫南道路

●所在地／南会津郡下郷町中妻字和田前・柳ノ下地内
●調査期間／令和3年4月～9月　●調査面積／652㎡
●時代／縄文時代
●概要／南会津でも代表的な縄文時代の遺跡です。4次調査までと同様、縄文時代中期～後期初頭の竪穴住居跡、土器埋設遺構、集石・配石遺構、貯蔵穴群が見つかり、多量の土器・石器が出土しました。折り取った土器の飾り部分を意図的に埋納したと考えられる土坑は、全国的にも珍しい例です。



2 下郷町｜中妻新田（なかつましんでん）遺跡

会津縦貫南道路

●所在地／南会津郡下郷町大字中妻字新田乙地内
●調査期間／令和3年9月～11月　●調査面積／2,500㎡
●時代／縄文時代
●概要／観音川沿いの段丘上に立地する遺跡です。縄文時代前期の土坑、焼土遺構、土器集中部が見つかりました。調査区南部の埋没した沢跡を中心に縄文時代早期の複数時期にまたがる土器・石器が出土しており、下郷町では最も古い時期の遺跡となりました。

3 川俣町｜前田（まえだ）遺跡（4次調査）

国道114号（山木屋1工区）改良工事関連

●所在地／伊達郡川俣町大字小綱木字前田地内
●調査期間／令和3年5月～11月　●調査面積／250㎡
●時代／縄文時代、古代、中世
●概要／高根川右岸の段丘上および扇状地形上に立地する遺跡で、縄文時代中期～晩期の遺構・遺物が多数見つかりました。これまでの調査と同様、縄文時代中期から後期の集落跡・墓域が確認できました。重複する遺構が多く、多量の土器や石器が出土しました。特に浅鉢型土器や注口土器などが多く見つかる集中地区もありました。

前田遺跡の発掘調査は、2021年度で終了しました。これまで6,150㎡の調査を行い、出土した土器や石器、木製品などは、4,000箱を超えています。今後は、発掘調査報告書作成に向けての整理作業を進めます。

4 浪江町｜丈六横穴（じょうろく）墓群、丈六（じょうろく）古墳群

一般県道落合浪江線整備事業

●所在地／双葉郡浪江町大字高瀬字丈六地内　●調査期間／令和3年9月～12月　●調査面積／750㎡
●時代／古墳時代
●概要／丈六横穴墓群、丈六古墳群は古くから知られた遺跡で、本格的な発掘調査は約30年ぶりになります。調査の結果、古墳1基と横穴墓6基（既調査分含む）・土坑1基が発見されました。令和4年度は、新たに発見された横穴墓2基を調査します。

5 富岡町｜日南（ひなごう）郷遺跡

主要地方道小野富岡線（高津戸工区）整備事業

●所在地／双葉郡富岡町大字上手岡字後田地内
●調査期間／令和3年5月～8月　●調査面積／2,100㎡
●時代／古墳時代
●概要／古墳時代後期前半頃の竪穴住居跡が5軒見つかりました。竪穴住居跡の中には、火災の痕跡が認められたものもありました。各竪穴住居跡から、杯、甕、甑などの土師器が出土しています。

6 富岡町｜高津戸（たかつど）館跡

主要地方道小野富岡線（高津戸工区）整備事業

●所在地／双葉郡富岡町大字上手岡字高津戸地内
●調査期間／令和3年7月～11月　●調査面積／1,300㎡
●時代／中世
●概要／高津戸館跡の南西部にある土塁・堀の調査を行いました。堀の形態は、「箱薬研堀」と呼ばれているもので、土塁頂部から堀底面までの深さは、約4mありました。